

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

1年間の留学が組込まれていて、留学の時の対応が充実していると思ったから。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

[1学期]

学校で行われる定期試験や模試などを活用して学習を進めました。特に復習を重点的にすることで、分からないものを減らすように努めていました。

また、英語の単語や文法は1日に1回でも触れておくようにしました。

[夏休み]

宿題として出された現代文と古典、英語の文章問題を1日1題ずつ解きました。

国語と英語は基礎だけでなく、読解力や読むスピードに力を入れたいといけふいと感じるので文章を読むことに慣れるための練習も兼ねて取り組みました。

私はこの時期に1年分の過去問を解いて、自分に足りないものや弱いところを見つけて対策しました。

[2学期～入試直前]

入試問題のパターンや傾向を捉えて問題に慣れることが大切だと思ったのでとにかく過去問を解きました。本番のように時限を計り、2解くことで入試本番でも練習の過去問と同じ緊張感を思い出して問題を解くことができましたと思います。

ただ2学期になると模試が多くなったり授業がラストスパートをかけたように感じるので夏休みにもう少し多く過去問に組み込んでおけばよかったと後悔しました。入試直前の時間はそれまで使ってきた古文単語と英単語の本で繰り返し確認したり、過去問を見直したりして過ごしました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は毎日何時間もスマートフォンを使っていたことがあったので、時間を使い過ぎていると思うアプリを消したり、代わりに英単語の学習ができるアプリを使ったり、とスマホとは自分なりにうまく向き合いました。'行事の夜やスランプの時はなるべくスマホを入れ替えられず勉強に集中できないうち、ということもあったので、勉強をしている周りの友達を見たり、オンラインキャンプへ行ったりしてモチベーションを上げていました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験は心理戦だとよく聞きますが本当にそれを実感した1年でした。絶対にやりたいと思う大学でも、受かるために自分の志を貫いて毎日勉強するのは意外と難しく、フライング気持ちになることが私はよくありました。しかしそのような苦しい日々の中でも、自分の成長を感じることや周りの人と助け合うことで、頑張っていて良かったと思える時がありました。受験勉強をすることで感じられるようになる小さな喜びを見つけて、勉強を楽しんでほしいです。応援しています!